



CONTENTS

- P1…土居さんが行く!
○「いきいきスクール出雲」編
- P2…地域で生産者と実需者が連携して消費拡大に取り組む事例を紹介!
～小売店と生産者の連携事例～
○小売店 株式会社ウシオ
牛尾篤史代表取締役社長 (出雲市)
- P3…○生産者 島根おやさい本舗 岸川勉さん (安来市)
- P4…益田翔陽高校レポート
P4…～もっと身近に有機農業を感じてもらうために、消費者向け啓発資料を作成～
- P5…シリーズ第37弾「環境農業」トピック
～県農業技術センター発～
- P6…お知らせ (farmo、Facebook)

第
41
号

島根の『環境農業』情報誌

『環境農業』に関する県の考え方や事業の進行状況をリアルタイムでお伝えし、皆さまとネットワークを結ぶことを目標としています。



地域の有機農業活動レポート

県内各地を歩いて有機農業の普及に日々奮闘しておられる土居さんからの活動報告です

○「いきいきスクール出雲」編

このたびは、「いきいきスクール出雲」の活動のうち、特に講座の内容について紹介します。

この講座の主催者である勝部久美子さんが、以前、看護師として病院に勤務していたころ、患者は増えていくばかりで病院はパンク状態、何でもかんでも薬に頼らなければならない状況でした。医者や看護師、患者、皆が疲弊していました。

勝部さんはこのような状況を見て、このままでは医療費が増えていく一方では、さらに地球環境はどうなっていくだろうかと危惧していたころ、自分が以前から関心を持っていた自然農法で何かできることはないか、とふと感じたことがこの講座を始めるきっかけに。

まずは「生きる力をつける学校」という思いから、「いきいきスクール」と名付け、今年3月より毎月実施しています。

勝部さんがこの講座を主催するにあたり、運営の強力なバックアップをしているのが「みゆき農園」の坂本美由紀さん。坂本さんは、自然農法の栽培を続ける中、普段から水田、畑での大豆栽培等、栽培体験等を通して自然農法に関心を持つさまざまな方々との交流を深められています。坂本さんのほかに、勝部さんの思いを共にする方々が集い、一緒に活動しています。

現在、この講座の参加者は10名程度。農業経験のない方、さまざまな人生経験の持ち主の方、あるいは子育て世代の方々等が集い、楽しく語り合いながら、講座を進めています。

ある参加者は「農業の知識は全くありませんでしたが、『毎日、野菜を見て声をかける』という話には感動し、野菜を育てるには心構えが大事だということを教えてもらいました。生き物は、人間も植物も一緒なんですね。しっかりと心に焼きつけておきたい一言でした。」との声もいただいています。

講座はとりあえず今年8月まで行いますが、その後についても農業体験学習や講演会等を企画しながら、こうした運動を進めていきたいと思っています。



●お問い合わせはこちらまでお願いします。
(講座の開催場所は、主に「出雲市斐川環境学習センター」です)
ikiiki.izumo@gmail.com 勝部久美子さんまで

小売店

株式会社ウシオ 牛尾篤史代表取締役社長(出雲市)

出雲市などで7店舗のスーパーを経営する(株)ウシオは、5年前から生産者と契約取引を開始し、スーパー「グッディー」全店舗に「有機・エコ専用コーナー」を常設し、葉物野菜を中心に四季折々の農産物を年間を通じて消費者に届けています。牛尾社長に、これまでの経緯や想いをお聞きしました。

Q1.専用コーナーを設置しようと思ったきっかけは？

グッディーは、地域のお客様に健康的な食生活を提供する企業を目指しています。近年、食の安全が危ぶまれる中、より安全で安心していただける農産物を提供したいという思いが強くなりました。

そこで、県内の生産者で「有機JAS」や「島根県エコロジー農産物」の認定を受けている生産者グループや個別農家など10の経営体と固定相場で全量買い取りの契約を結んで取引しています。

バイヤーが直接生産者のほ場を訪ね、どのような環境で、どのような思いで栽培されているか実際に見て聞いて、納得のいく農産物を提供しよう心がけています。

Q2.売り場づくりで心がけていることは？

店頭には生産者の顔写真を大きく掲示し、栽培のこだわりや野菜の特徴をPOPで紹介しています。試食も積極的に行い「伝える売り場づくり」を実践しています。

県が企画する「オーガニック・エコキャンペーン」にも全店舗参加し、積極的にPRしています。

Q3.消費者の反応は？

設置当初は全く売れず不採算でしたが、3年前からお客様に変化が出てきて、少しずつ良いものを求めるお客様が増えてきました。「〇〇さんの〇〇はとても美味しかった。」とリピーターの数も増えています。

安全で安心な野菜を置くことが店舗内にある食品全体のイメージアップにつながっており、手ごたえを感じています。有機やエコに取り組む生産者が増えていくことを期待しています。

Q4.最後に

県内の農産物を使った加工品の開発も手掛けており、県産農産物の付加価値にも取り組んでいます。

また、毎月19日を「食育の日」とし、食育コミュニケーターがお客様とコミュニケーションを取りながら食を提案しています。正しい選択のできる消費者を育てることも、スーパーの役割だと思っています。

島根県には、すばらしい有機・エコ農産物がたくさんあるので、多くの人に知ってもらって、買ってもらえるよう継続してPRしていきたいと思えます。地域のスーパーマーケットとして島根で育てられてきた私たちが、地域を知り、地域の食を守り、地域のお客様に喜んでいただけるお店・企業を目指し、益々努力してまいります。

【県農産園芸課有機農業グループ】



地域で生産者と 実需者が連携して 消費拡大に取り組み 事例を紹介します。

小売店と生産者の連携事例

生産者

島根おやさい本舗 岸川勉さん(安来市)

安来市、松江市でUターン者を中心に結成した農家のグループです。生産者間で出荷基準を統一し、「島根おやさい本舗」として統一ブランドで葉物野菜を中心に販売しています。

メンバーの岸川さんに、活動の目的や取り組みをお聞きしました。

Q1.グループ結成のきっかけは？

個別で出荷するより、仲間で共同出荷することで、スケールメリットを生かした販売に取り組もうと、平成17年に「えーやさい研究会」として設立し、平成22年に「島根おやさい本舗」に改名し活動しています。

現在、会員は生産者10名、研修生1名で、ほとんどが「有機JAS」「島根県エコロジー農産物」の推奨を受けています。栽培品目は小松菜、ほうれん草、水菜、春菊などの葉物野菜が中心で、一部トマト、イチゴを生産する人もいます。販売先はグッディーなど山陰地区のスーパーが中心です。



Q2.共同出荷の仕組みは？

会員同士で定期的に栽培状況を情報交換し、グループ全体の出荷計画をもとに販売先へ情報提供します。バイヤーからの発注は事務局が一括受け、出荷個数を会員に配分します。会員間で出荷基準を統一し、「島根おやさい本舗」として統一ブランドで販売しています。販売先からの代金は、グループの通帳に一括入り、島根おやさい本舗の手数料を引いて会員に振込まれます。

天候に左右されることも多いですが、グループで取り組むことで、互いに補い合い、安定的な出荷に心がけています。

Q3.活動のモットーは？

「すまいるベジタブル」を合言葉に、野菜づくりを通じて、お客様、生産者、地域社会が笑顔になるよう、日々会員同士で刺激を受け合いながら切磋琢磨しています。

栽培技術の向上を目指し研修会や先進地視察を積極的に実施しています。

また、店舗での立ち売りで直接消費者へPRする機会も設けています。



Q4.新たな動きや今後の事業展開

生産量が増えたため、山陰地区以外への販路拡大を目指し平成27年7月に安来市赤江地区のメンバーで有機JASの認証を取得し、「赤江・オーガニックファーム」を新たに設立しました。

現在では大阪、京都、岡山等に共同出荷し生産量が追い付かない状況です。ハウスの増棟や研修生の受入れも行い、規模拡大を図っていきます。

【県農産園芸課有機農業グループ】



益田翔陽高校レポート

環境保全型 農業への取り組み

【島根県立益田翔陽高校 野菜・作物部】

環境保全型農業に取り組んでいる益田翔陽高校 野菜・作物部です。

昨年度は、合鴨水稲同時作での排泄物の肥効について、報告させていただきました。益田翔陽高校では環境保全型農業を学習に取り入れ、15年目になります。その中で一貫して生徒に伝えていること

は「豊かな生き方」やそのための「食べ方」です。そのきっかけとして、今年度も多くの研修を計画しています。鹿児島県や埼玉県などへの研修のほか、2年生は今秋に福岡県食肉市場への見学や熊本県での環境保全型農業を視察します。

大変ありがたいことに、益田市周辺には吉賀町柿木村を中心とした豊かな暮らしを考える有機農家が多く存在し、この方々に積極的に関わっていきたくと思っています。また、その取り組みの一部を紹介できたらと考えています。1年間よろしくお願ひします。



水稲栽培で使う竹チップ発酵資材の準備



本年度も水稲栽培が始まりました



合鴨のバビック(馴化兼肥育場)の作製

～もっと身近に有機農業を感じてもらうために、消費者向け啓発資料を作成～

県では、乳幼児期のお子様を持つ保護者を中心に、身近な食を通じて有機農業をはじめとする環境保全型農業について理解していただき、それらの農産物の利用拡大が図られるよう、啓発資料を作成しました。

内容は、一部、県農産園芸課ホームページに掲載するほか、冊子の送付を希望される場合は、下記までご連絡ください。
農産園芸課有機農業グループ TEL0852-22-6477

- お母さんと赤ちゃんのための有機農産物読本
- お母さんと子どものための有機農産物読本
- 食事から考える子育て はじめの有機 特集号



A5版 16ページ



A5版 16ページ



A3版 4ページ



県農業技術センター発

環境農業

シリーズ 第37弾 トピック



炭酸ガスくん蒸によるイチゴのハダニ防除

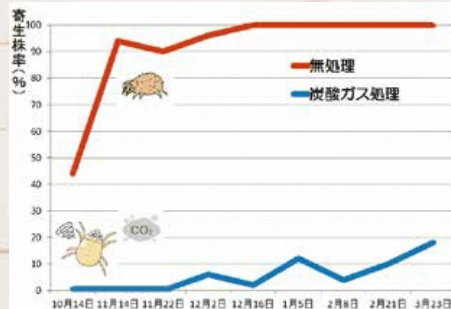
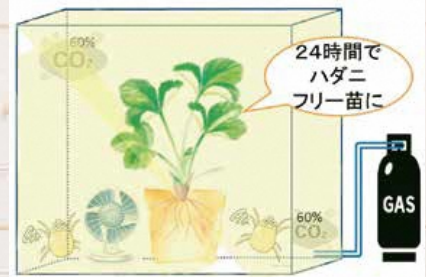


炭酸ガスは、米や麦などの貯穀害虫の防除剤として倉庫内でのくん蒸に利用されてきましたが、近年、野菜苗の害虫防除での利用が注目されています。

炭酸ガスは大気中に含まれている成分であり、また、くん蒸に用いる炭酸ガスは石油精製工程などから発生する廃棄ガスを回収してリサイクル利用されています。したがって、この炭酸ガスによる殺虫法は地球環境に優しい防除技術といえます。

イチゴ苗に寄生しているナミハダニは、薬剤抵抗性の発達が著しく、防除が困難な害虫ですが、この炭酸ガスによる防除であれば、化学農薬に抵抗性のある害虫にも効果が高く、また殺卵効果も認められることから、イチゴ苗に寄生しているハダニを限りなくゼロにすることが可能です。

そこで当センターでは、イチゴのナミハダニ防除に、2013年に農薬登録が認可された‘くん蒸用炭酸ガス’を用いて、イチゴ苗をガス濃度60%で24時間くん蒸処理する研究を行ってきました。



安来市の実証ほ場で、実際にこの炭酸ガスによるくん蒸処理を行いましたところ、定植後のハダニの発生が低く抑えられ、定植後の薬剤防除回数を大幅に減らすことができました。



<炭酸ガス処理区>



<無処理区>

なお、炭酸ガス処理時に、高濃度のガスに触れたイチゴの葉が黒変したりモザイク状に脱色するといった薬害症状の発生がみられることもありましたが、生育や収量への影響はありませんでした。



<コンテナにイチゴ苗を入れ、専用の袋で密閉し、くん蒸処理>

処理装置は一回の処理数が2,200株程(約3a分)のもので一式約80万円、6,000株のもので約100万円、さらに処理に必要な炭酸ガスとして1株当たり約2円の経費がかかりますが、装置を共同利用することでコストが下がり、小規模農家でも導入可能です。

【県農業技術センター技術普及部有機農業普及課】

オーガニックを、 ひらこう！

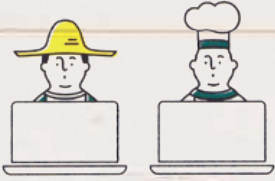
farmO (ファーモ)のご紹介

farmO

オーガニックがつながるファーモ

farmOは有機農業や環境保全型農業など環境負荷を抑えた「オーガニック・エコ農業」を実践されている生産者さんと、オーガニック・エコ農産物を扱いたいバイヤー(買い手)さんが、もっと自由につながることでできるサービスです。

farmOでは、自分の売りたい野菜を掲載して新しい販路を見つけたり、バイヤー(買い手)さんの買いたい品目を知ることによって作付けの参考にもしていただけます。また、「ひろば」という掲示板では、オーガニック・エコ農業に感心のある方々との情報交換もできます。それぞれの試行錯誤や情報をシェアし、有機農業を前向きに、オープンに語り合うことで、「オーガニックをひらく」ことをめざしています！



①さがす
生産者さんは地域や業種からバイヤーさんを、バイヤーさんは育てている野菜や地域から生産者さんを探すことができます。



②つながる
気になった生産者さん、バイヤーさんには直接メッセージを送り、取引につなげることができます。



③ひろがる
さがす・つながるだけでなく、もっと広く質問したい、相談したい、シェアしたい…という声から、「ひろば」が生まれました。

farmO

farmOひろば

ニュース	質問	売りたい 買いたい
●月●日 イベント あります！	農機具を シェア しませんか？	芽キャベツ が豊作 です！
新しい 加工品が できました！	この品種の レタス、作った ことある人は いますか？	オカワカメ を探して います！

←farmOひろばでは、
オーガニック・エコ農業の情報を
オープンにシェアすることができます。

■farmO(ファーモ)
<https://www.farm-o.net/>



■ご登録はこちらから
https://www.farm-o.net/pre_signup

※ ファーモは農林水産省の補助事業を
活用しており登録料や年会費などは無料です。



島根県有機農業グループの公式Facebookページを運用中！



アカウント名

島根県有機農業グループ

Facebook URL: <https://www.facebook.com/shimane.yuuki>

*生産者からの情報提供も受け付けております。掲載、リンクを希望される場合には、
有機農業グループ(0852-22-6477)までご連絡ください。



宣言の状況

(平成30年4月末現在)

3,885件

消費者の方……3,061件
農業者の方……680件
企業・学校等……144件

この情報誌は、「環境を守る農業宣言」をした生産者や消費者の方々及び関係機関に配布しています。
ご意見、掲載希望、また配布停止を希望される方は、下記までご連絡ください。

発行・編集

島根県農林水産部農産園芸課 (平成30年6月1日発行)

〒690-8501 松江市殿町1番地

E-mail econousan@pref.shimane.lg.jp

TEL.0852-22-6704/FAX.0852-22-6036

URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/nosan-engei/>

Facebookアカウント名「島根県有機農業グループ」(<https://www.facebook.com/shimane.yuuki>)

